

陸自V-22オスプレイの予防着陸について

1. 8月31日(木)14時10分頃、訓練のため静岡県沖上空を飛行中であった陸上自衛隊V-22オスプレイについて、予防着陸を促すランプが点灯したことから、所定の対応手順に従い、最寄りの航空自衛隊静浜基地に予防着陸しました。
2. なお、人員の負傷、機体への外傷、部外への被害等はありません。
3. オスプレイは、高感度のセンサーが内部に張り巡らされており、整備の必要性等を早期に知ることが可能です。
4. 当該陸自V-22オスプレイのナセル内部の「プロップローター・ギアボックス」という、エンジンの動力をローターに伝達する装置に金属片が発生したことを知らせ、予防着陸を促すランプが点灯しました。
5. ギアボックスの内部では、ギア等が高速回転しているため、様々な部品が摩耗して金属片が発生する場合があります、これは一般的な事象です。
6. ギアボックス内の点検、発生した金属片の成分について、現在、分析中であり、時期等について確定的に申し上げられませんが、9月上旬までには成分分析を完了させ、これに基づいて整備を行います。
7. 金属片の分析結果に基づき整備の方法は決定されますが、一般的に
 - ①ギアボックス内部の洗浄
 - ②構成品の交換等が考えられます。
8. なお、今回の事象は、HCEではありません。
9. 今般の事象は、陸自オスプレイの設計技術上の課題ではなく、運用する上で一定程度生じる部品の摩耗であることから、引き続き、安全性に配慮しながら運用してまいります。